

## 論文審査の結果の要旨

氏名：井 口 梅 文

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：敗血症患者の退院時日常生活への復帰を妨げる急性期臨床的因子

審査委員：（主 査） 教授 中 嶋 秀 人

（副 査） 教授 吉 野 篤 緒 教授 三 木 敏 生

教授 浅 井 聰

敗血症は予後不良な疾患であり、救命だけでなく社会復帰に関わる重大な病態であるが、これまで敗血症の生命転帰に関する検討はあるものの、日常生活への復帰に影響する急性期臨床的因子についての報告はない。本研究では、敗血症患者の退院後の日常生活復帰頻度を調査し、急性期集中治療中の各種指標やバイオマーカーとの関連を解析し、それを妨げる急性期臨床的因子を検討した。

対象は敗血症と診断され、入院前の日常生活動作（activities of daily living; ADL）の程度が良好だった患者 57 例。転帰は退院時の mortality, cerebral performance category (CPC), Glasgow outcome scale-extended (GOS-E) score, modified Rankin Scale (mRS) で評価し、低血圧と酸素化障害の日数、血糖値の変動、血中バイオマーカーとの関連性を検討した。57 例の退院時の mortality は生存 91.2%vs.死亡 8.8%, 日常生活復帰の評価として, CPC 転帰良好 vs. 転帰不良は 17.5%vs.82.5%, GOS-E 14.0% vs.86.0%, mRS 15.8%vs.84.2%であった。急性期集中治療中の各種指標と転帰との関連では、1 週間平均血糖値は GOS-E と mRS の転帰良好群で有意に低値を示し、日別の平均血糖値でも GOS-E と mRS も転帰良好群で有意に低値だったが、血糖値変動の大きさは転帰に関連しなかった。また、低血圧の日数と酸素化障害の日数は転帰不良群で有意に長く、多重ロジスティック回帰分析により GOS-E と mRS の評価において低血圧日数が独立した転帰不良因子として抽出された。炎症性サイトカインなどバイオマーカーと転帰には関連を認めなかった。

敗血症患者の日常生活復帰割合は少なく、退院時の転帰は低血圧日数や酸素化不良日数に関係した。また、急性期集中治療管理中はより低い平均血糖値の管理が転帰を改善させる可能性が示唆され、これらの研究成果は敗血症患者の日常生活復帰を見据えた新たな治療戦略を考察する上で学術的意義が高い。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 4 年 2 月 24 日